



ロタウイルスのワクチン（ロタリックス）の接種が平成 23 年 11 月 28 日から開始になります。

●●● ロタウイルスのワクチンについて ●●●

- ① ロタウイルス胃腸炎を予防する経口生ワクチンです。
 - ② 重症ロタウイルス胃腸炎の発症を 92% 予防し、ほぼ 100% 近くが入院をしないですみます。
 - ③ 生後 6 週間から接種でき、生後 24 週以下の赤ちゃんに推奨されており、一回目の接種は、生後 15 週頃までに行うのが望ましいとされています。
 - ④ 1 回目から 4 週あけて 2 回接種で、ロタウイルス胃腸炎に優れた予防効果が認められています。
- 甘いシロップを 1・5ml 飲んでもらいます。

接種後 30 日間に、軽いぐずり（易刺激性）7%、下痢 3%、咳や鼻水が 3% みられることがありますが、いずれも 1～数日で自然に改善します。

まだ公費負担がおりていないために、自費負担で 1 回が 16,800 円です。（2 回接種）

● ロタウイルス感染症の特徴

乳幼児の冬の急性下痢症の最も主要な原因がロタウイルスによる感染症です。

秋から年末にかけてはノロウイルスが、1 月から 4 月にかけてはロタウイルスが主に流行します。

生後 6 ヶ月から 2 歳の乳幼児に多くみられ、5 歳までにほとんどの小児が経験します。

米のとぎ汁のような白色の下痢便が特徴で、そのため白痢あるいは仮性小児コレラとも言われていました。

主な症状は嘔吐と下痢ですが、ノロウイルスよりも発熱を伴う場合が多く、重症度が高いとされています。

また痙攣、急性脳炎・脳症の合併がみられることがあります。

脱水症などのために受診される乳幼児の 15 人～10 人に 1 人は入院加療が必要となります。

通常 1 歳を中心に流行がみられますが、保育所、幼稚園、小学校などの小児やご家族の中でも流行します。

● 感染経路

患者の便 1g 中には 10 から 100 億個ものウイルスが排出されます。ロタウイルスは感染力が非常に強く、10 個以下のウイルスで感染が起こります。このため、患者の便中のウイルスがなんらかの形でほかの人の口に入って感染します。

ウイルスは環境中でも安定なので、汚染された水や食物を介して、あるいは汚染された物の表面（ドアノブ、手すり等）を触った手などから口に入り感染します。



● 症 状

嘔吐、下痢、発熱が主な症状です。

潜伏期間は約2日で、激しい嘔吐（1日5から6回）、激しい下痢が特徴ですが3から8日程度で治まります。発熱は半日から1日で終わる場合が多く、2日を超える例はあまりありません。

激しい嘔吐や下痢により急激に水分を失いますので、特に乳幼児では脱水症状に気をつける必要があります。

ロタウイルスのように局所感染を起こし潜伏期間が短い感染症では、感染後の免疫が不完全かあるいは免疫が成立しても持続しない（1年以内）ので、たびたび再感染を起こします。

一般に、年長児や成人では感染しても発症しない（不顕性感染）や軽くすむ場合が多いです。

● 治療方法

現在、このウイルスに効果のある抗ウイルス剤はありません。

脱水症を防ぐため、市販のイオン飲料等で水分を補給する必要があります。少しずつ何度も飲ませてあげましょう。飲んで吐いてしまう場合は、早めに医療機関を受診してください。

下痢止め薬は、病気の回復を遅らせることがあるので使用しません。整腸剤（ビオフェルミンなど善玉菌製剤）で腸内環境を整えるようにします。

● 予防方法

生後6カ月から3歳前後の乳幼児が重症化して入院が必要となることが多いので生後6週間から24週間の間にワクチンで初期免疫をつけるのが一番です。

また、日頃からの予防方法としては、食事前やトイレの後などにおいて、せっけんを使ってしっかりと手を洗うことが大切です。

● 二次感染を防ぐために

患者の便や嘔吐物には大量のウイルスが含まれていますので、その処理には十分注意する必要があります。また、下痢の症状がなくなった後も、患者の便にはしばらくウイルスの排出が続くと考えられますので、症状が治まっても安心はできません。汚物を処理する際には使い捨ての手袋を使用し、用便後や調理前の手洗いを徹底しましょう。